

## 電話リレーサービス支援業務諮問委員会（第6回）議事概要

1. 開催日 令和6年2月8日（木）WEB会議
2. 場所 一般社団法人電気通信事業者協会
3. 出席者 【委員】（五十音順、敬称略）  
大塚 晃、岸田 隆司、黒田 勝己、小浦 道子、篠原 伸生  
砂田 薫、関口 博正、長谷川 珠子、前田 敦史、松井 敏彦  
(10名)  
  
欠席者 坪谷 寿一、山本 健一

### 【一般社団法人電気通信事業者協会】

山本 一晴（専務理事）、宮山 浩一（支援業務室長）、有木 節二

## 4. 議題

### 【審議事項（諮問事項）】

- (1) 令和6年度の番号単価の算定について
- (2) 令和6年度交付金の額及び交付方法、負担金の額及び徴収方法並びに総務大臣への認可申請等について
- (3) その他

## 5. 議事概要

### 事務局（開会宣言）

（専務理事挨拶）

（諮問委員12名中10名出席で定足数を満たしており、本会議は成立している旨を報告）

（資料の確認）

委員長 これより審議に入ります。TCA会長からの諮問事項が2件ございます。まず、審議事項(1)「令和6年度の番号単価の算定について」を審議いただきます。

（事務局説明）

委員長 只今の説明について、ご質問、ご意見はございませんでしょうか。

委員 電話リレーサービス立ち上げ当時の研究会等に携わった経験があり当時のことを思い出しながら話を伺っておりました。当時も様々な議論があった中で、手話の通訳に限らず、音声認識技術等を取り入れて、将来的に効率的なサービス構成にしていくという議論が交わされておりました。その中で、今回のCTSという今までと違う新しい取り組みについて取り入れていくことは先々の効率的な運用という観点で必要ではないかと思えます。ただ一方で、今回、予算等を拝見していると、一時的に開発費、或いはそれに伴う体制強化等により費用が増加しているという

ことでした。電話リレーサービス立ち上げ当時は、電話リレーサービスをどこまで国民全体で広く負担するようなサービスにしていくかという議論が開かれたところで行われていました。今回の CTS については総務省への説明の中で承認されたので取り入れていくとのことでしたが、立ち上げ当時と同様に、広く意見を求めたうえで、例えば特定電話提供事業者や実際に費用を負担することになる各社の電話サービスの利用者の方々に費用負担が増えることについて、納得いただけるようなプロセスを経てからこのような開発を進めるということも必要ではないでしょうか。そのあたり、どういった社会的コンセンサスを得るためのプロセスが踏まれてきたのか、或いは今後踏まれる予定があるのかおわかりになる範囲で教えていただけたらありがたいです。

事務局 ありがとうございます。只今の件につきまして、利便性を高めるという意味では新たなものを参入していきながらやっていくということまでは把握しているところですが、今後についてはご意見があったものとして提供機関、総務省へお伝えしたいと存じます。

委員長 他にご意見はございませんでしょうか。

委員 この事業の必要性ということから解説していただきましたが、まだ始まったばかりで今後どのように発展していくか、利用者が増えていて更に利用者が利用を広める可能性が高く、このような事業については必要なことという観点から発展する、そうすれば費用負担ということも納得するのでは、これがキーポイントかなと思います。その意味では、利用者はこれからかなりの増加傾向とのことですが、この動向というのは毎月コンスタントに増えていくのか、或いは事業内容にもよりますが、ある一定のところまで行ったら伸び率というのは緩やかになっていくのか、更に高い数の見込みなのか、いかがでしょうか。

事務局 ありがとうございます。利用者数の増加ということですが、まずは、CTS については令和6年度からの事業です。これまでの利用者数を元に算出されています。次年度以降の今後の利用者数につきましては利用者予測数となっております。高い目標を以て進めたいということだと思います。周知広報も力を入れてやっていくということも含めて利用者数を伸ばしたという考えと捉えています。ご意見につきましては提供機関へお伝えします。

委員長 他にご意見ありますか。

委員 調査研究費に新しい技術に関連した費用が含まれていますが、自動音声認識の開発は今回見合わせたと聞いています。調査研究される技術と新しいサービスとして出てくる技術はどういう関連にあるのでしょうか。例えば、これまでの調査研究の結果としてCTSの有効性が認められ導入に至ったという経緯であればわかりやすいのですが、それとは関係なく調査研究として新技術の研究開発がなされ

ているというのであれば理解をしづらいところもあります。まずはそこを明らかにしていただきたいと思います。そのうえで、新技術をどんどん使っていったら、利用者にとって便利になる、また運営側にとっても効率的になるというのを積極的に進めていただきたいと思います。となると、新技術に関しては単年度ではなくてももう少し中期的な見通しを明かにしてもらった方がいいという気がします。

事務局 ありがとうございます。これにつきましては提供機関で検討するべきことですのでご意見として伝えます。

委員長 他にご意見等はございますでしょうか。では、その他ご質問、ご意見無いようですので審議事項(1)「令和6年度の番号単価の算定について」につきましてはご了承をいただいたものといたします。

次に審議事項(2)「令和6年度交付金の額及び交付方法、負担金の額及び徴収方法並びに総務大臣への認可申請について」審議いただきます。

(事務局説明)

委員長 ただいまの説明について、ご質問、ご意見はございませんでしょうか。それでは諮問のとおりの内容で了承のこととし、この内容で答申いたします。本日予定された議事は以上でございます。事務局へお返しいたします。

事務局 本日はお忙しい中、第6回支援業務諮問委員会にご出席いただきありがとうございます。引き続きよろしく願い申し上げます。